

一般社団法人日本人間工学会

2021 年定時社員総会資料

- I. 2020 年度事業報告
- II. 2020 年度収支決算（案）
- III. 2021 年度事業計画（案）
- IV. 2021 年度収支予算（案）

一般社団法人日本人間工学会
Japan Human Factors and Ergonomics Society (JES)

2021 年 5 月 23 日

I. 2020年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当:石橋 基範、中川 千鶴}

【総 数】

(単位:人)

会 員	2020年4月1日	2021年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,337	1,329	58	66

会員資格
変更

正会員:	1,252	1,242	41	56	-15	5
準会員:	85	87	17	10	+7	-5

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2020年4月1日	2021年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	29	29	1	2	-1(+1)
東 北	45	47	5	1	+4(-2)
関 東	731	731	36	35	+1(-1)
東 海	126	123	2	6	-4(+1)
関 西	238	235	10	13	-3(0)
中国・四国	98	96	2	6	-4(+2)
九州・沖縄	65	63	2	3	-1(-1)
国 外	5	5	0	0	0(0)
賛 助 会 員	27社28口	26社27口	0社0社	1社1口	-1社-1口

2. 事業報告

{総務担当：石橋 基範、中川 千鶴}

2020年度は、一般社団法人日本人間工学会第7期（2020年6月～2022年6月予定）の1年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。特にCOVID-19の収束が見えない中、オンラインという制約を逆手に取ってその特長を活かした支部・研究部会活動や、社会へのメッセージの発信を推進した。それと同時に、学会の事業推進や事務局運営等においてコスト低減や効率化を進めた。

- (1) 2020年定時社員総会を2020年6月13日にオンラインにおいて開催し（開催場所：日本人間工学会事務局）、2019年度事業報告・収支決算、2020年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) COVID-19の感染拡大状況を鑑みて、広島県尾道市での日本人間工学会第61回大会（村田厚生大会長）は中止とした。第61回大会の発表予定者のうち、希望者についてはJ-stage上に講演原稿を掲載し、誌上发表とした。
- (3) 学会誌「人間工学」の第56巻2～6号及び第57巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を2020年5月8日、6月12日、6月13日、10月5日、2021年3月2日の計5回開催した。
- (5) 2020年度論文賞（該当なし）、研究奨励賞（1件）、グッドプラクティス優秀賞（2件）の表彰を行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験（A方式試験）合格者3名、準専門家合格者12名、アシスタント5名を新たに得た。その結果、2020年度末現在の認定人間工学専門家は211名、準専門家155名、アシスタント14名、シニアCPE13名となった。このほか、定期総会、オンラインワークショップを開催し、リニューアルした会報を発行した。
- (7) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

7-1) 広報委員会

ホームページでの情報発信、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。支部大会の講演集を収集し、一部を除き公開した。

7-2) 編集委員会

学会誌「人間工学」の新運営方針を「投稿したいジャーナルを目指して」とし、1) 学会誌の投稿規程・執筆要項・査読方針・査読基準の改定、2) 査読プロセスの短縮化、3) エディトリアル創設・運用、4) 人間工学誌への投稿経験者に対するオンライン調査の実施、5) 編集委員会による実践報告論文の執筆・公表、6) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の創設（トップ10%査読者賞）を行った。2020年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が48編（採択26編、不採択21編、取り下げ1件、採択率55.3%）であった。

7-3) 国際協力委員会

IEA 評議会（2020.10.20、オンライン）、ACED 評議会（2020.12.1、オンライン）等、国際協力関連会議に委員長初め各委員が出席した。また、IEAとの連絡の窓口となり、JESの情報をIEAに展開するとともにIEAの情報をJESに展開した。

7-4) ISO/TC159国内対策委員会

DIS等の規格原案に関する計40件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議3回、分科会21回）審議を行った。また、国際会議出席（36回、のべ144名出席）などによって1件の新ISO規格の発行および4件のISOを発行直前の段階に進めることに寄与した。

7-5) 表彰委員会

表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営のもと、2020年度各賞受賞者に対する授与式を行った。査読に貢献された方々を表彰するため、新たにトップ10%査読者賞を制定した。2021年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。国際協力委員会とともに、IEA等国内外の組織の表彰に対する推薦等を行った。

7-6) 安全人間工学委員会

他学会とのシンポジウム共催、安全工学シンポジウム2020でのOSの企画等を実施した。

7-7) 学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

7-8) 若手支援委員会

2020年度は学部生を対象とした大学院への進学, および修士課程学生の博士課程進学を支援するセミナーの開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大のためいずれも実現には至らず、オンライン環境を用いたセミナーの企画検討をすることとどまった。

7-9) 企業活動推進委員会

種要因の影響で2021年3月まで活動が一時中止となったが、4月からネットコミュニケーションツールを活用して活動再開する。

7-10) 人間工学戦略ロードマップ検討委員会

ワーキンググループにより「人間工学技術戦略ロードマップ2006年」および「人間工学技術戦略ロードマップ(改訂1)2008年」を基に意見および情報交換するとともに委員会の活動計画を検討した。

7-11) 国際誌検討委員会

研究力分析ツール SciVal を活用し人間工学領域の国際誌動向分析を行った。「理論と実践の橋渡しを促進させるジャーナル」として、これまでにないユニークかつ人間工学の学際性をアピールするジャーナルを創設する方向で議論を重ねた。

7-12) 子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題について情報交換するとともに、情報発信している委員会のウェブサイトの活用や展開について議論した。また、文部科学省の専門家会議などで委員会活動を紹介した。

7-13) 第61回大会担当

COVID-19の感染拡大状況を鑑みて、広島県尾道市での日本人間工学会第61回大会(村田厚生大会長)は中止とした。第61回大会の発表予定者(185件)のうち、希望者についてはJ-stage上に講演原稿を掲載し、誌上発表とした。

(8) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE研究部会、科学コミュニケーション部会、システム大会部会の計11研究部会が、多彩な活動を行った。

(9) 関連学術団体等の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(10) 学会事務局では、JENC事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、経費削減のため事務局事務所の移転を行った。さらに、学会誌や大会講演集のJ-STAGEへの公開を進め、学会HPおよびJESニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：山田クリス孝介、副委員長：松岡 敏生、齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をホームページにて情報発信した。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めるとともに、登録者数増加に向けた戦略を検討した。
- (3) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、開設 10 周年の記念企画を実施した。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を引き続き行った。
- (5) Facebook の有効活用を検討した。
- (6) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、掲載事例の増加対策を検討した。
- (7) COVID-19 対応に取り組むグッドプラクティスを発信するための仕組みを検討した。

3-2. 編集委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：村木 里志}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 2020年04月：第56巻2号 (pp. 49-94) : リサーチイシュー1編、原著論文1編、短編2編 他
 - 2) 2020年06月：第56巻3号 (pp. 95-122) : 実践報告1編、オープンデータ1編、原著論文1編 他
 - 3) 2020年08月：第56巻4号 (pp. 123-164) : オープンデータ1編、原著論文3編 他
 - 4) 2020年10月：第56巻5号 (pp. 165-218) : 実践報告1編、原著論文3編、短報3編 他
 - 5) 2020年12月：第56巻6号 (pp. 219-282) : エディトリアル1編、原著論文3編、短報2編 他
 - 6) 2021年02月：第57巻1号 (pp. 1-58) : エディトリアル1編、実践報告2編、原著論文3編 他
- (2) 第7期編集委員会では学会誌「人間工学」の新運営方針を「投稿したいジャーナルを目指して」とし、以下に示す取り組みを行った。
 - 1) 学会誌の投稿規程・執筆要項・査読方針・査読基準の改定
 - 2) 査読プロセスの短縮化（主査・副査アサイン期間の圧縮、査読期間短縮、論文修正期間短縮）
 - 3) エディトリアルの創設（56巻6号より）および運用
 - 4) 人間工学誌への投稿経験者に対するオンラインアンケート調査の実施
 - 5) 編集委員会による上記4)の調査に関する実践報告論文の執筆・公表
 - 6) 表彰委員会との協同により、査読者表彰制度の創設（トップ10%査読者賞）
- (3) 編集委員会の開催
オンラインによる編集委員会を計3回開催した（8月、11月、3月）。
- (4) 投稿論文数・採択率・査読期間
前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。
2020年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が44編であった。2020年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が48編（採択26編、不採択21編、取り下げ1件、採択率55.3%）であった。また、2020年度に判定が確定した論文の1回目査読結果返却の平均日数は、採択論文22.8日、不採択論文24.2日、投稿から最終判定通知までの平均日数は、採択論文78.7日、不採択論文31.8日であった。
- (5) その他、編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 委員会開催

MLによる委員会の開催，そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

HFE Educational Map の協力についての審議，次回日韓共同シンポジウム の開催についての審議，国際学会の協賛依頼の承認，IEA Task Force, Future of Work によるアンケート，国際協力委員会 のウェブサイトにおける情報公開についての紹介，関連学会の日程と開催方法についての報告など

(3) 国際交流

- ・ IEA 評議会(オンライン，10月20日)への参加

小谷委員長，鳥居塚副委員長，および藤田前 IEA 会長が出席し，EC メンバー報告，IEA ネットワークとしての BRICSplus の受け入れ，CPE 認証組織の承認方法の一部変更，諸団体との覚書について，監査報告などが行われた。

- ・ 国際表彰対応（提出資料の準備，表彰委員会との連携，IEA Award Committee との事務対応）
- ・ 鳥居塚委員が引き続き IEA Auditor として協力することとなった
- ・ ACED 評議会（オンライン，12月1日）
- ・ JES-ESK ジョイントシンポジウムの次回開催日程について ESK と連絡を取り，検討

(4) ACED2020（フィリピン，オンライン，12月2-4日）に出席

(5) JES-ESK ジョイントシンポジウムの出席（韓国(オンライン)，10月28-31日）

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

- ・ 国内委員会:全体会議3回、分科会21回（メール審議含む）
- ・ 国際会議出席状況:36回の国際会議に延べ144名出席（ネット会議を含む）

(2) 発行規格、投票

〈新 ISO 規格〉:1件

〈投票〉: NP:7件、CD:2件、DIS:5件、FDIS:1件、SR:23件、DTR:1件、DTS:1件

(3) 分科会活動（メール審議含む）

- | | | |
|--------------------------------|---------|-----------------------------------|
| ・ SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査:青木和夫 | 分科会7回開催 |
| ・ SC3(人体寸法と生体力学) &WG | 主査:榎原毅 | 分科会0回開催
(適宜メール審議し、分科会としては開催せず) |
| ・ SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG | 主査:福住伸一 | 分科会0回開催 |
| ・ SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG | 主査:齊藤宏之 | 分科会8回開催 |
| ・ アクセシブルデザイン関連会議 | 主査:青木和夫 | 分科会6回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：鴻巣 努}

(1) 表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営を行った。

(2) 2020年定時社員総会において功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行った。

- (3) 関西支部大会、関東支部大会において、優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4) 査読に貢献された方々を表彰するため、新たにトップ10%査読者賞を制定した。
- (5) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ10%査読者賞候補の選考を行うとともに、表彰の準備を行った。
- (6) 国際協力委員会とともに、IEA 等国内外の組織の表彰に対する推薦等を行った。
- (7) 表彰委員会ウェブサイトの整備・拡充を行い、JES ホームページにおける表彰関係情報の整合を図った。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：狩川 大輔}

- (1) 芳賀（委員長，社会安全研究所），狩川（副委員長，東北大学），鳥居塚（日本大学），佐相（電力中央研究所），細田（関東学院大学），藤野（福井県立大学）の6人で活動した。
- (2) 産業・組織心理学会第137回部門別研究会「ノンテクニカル・スキル/レジリエンス・スキルの教育訓練(2)」を協賛した。(2020年5月30日(土)、オンライン開催)。
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム2020の実行委員に佐相委員が就任し、「レジリエンス・エンジニアリングと安全諸理論」をテーマとしたオーガナイズド・セッションを企画したが、シンポジウムがオンライン開催となったため実施を延期した。
- (4) 日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第21回安全・安心のための管理技術と社会環境ワークショップ「社会の変化と人の育成—学習機会の減少、過酷な状況への対応、自動化の進展がもたらすもの—」を主催した。(2020年11月14日(土)、オンライン開催)
- (5) 日本人間工学会東北支部と研究会「医療・看護と人間工学」を共催した。(2021年3月20日(土)、オンライン開催)
- (6) 芳賀委員長がDr. Erik HollnagelをIEA Ergonomics Development Awardに推薦した。

3-7. 学術担当

{担当：横山 清子、青木 洋貴}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。横幹連合へ学会推薦理事として参画した（青木理事）。

3-8. 人間工学専門家認定機構

{機構長：八木 佳子、副機構長：鳥居塚 崇}

- (1) 会員状況（2021年3月31日現在）
 - 人間工学専門家 211名
 - 人間工学準専門家 155名
 - 人間工学アシスタント 14名
 - シニア認定人間工学専門家 13名
- (2) 資格認定試験及び審査実施状況
 - 資格認定試験（A方式試験）を2回実施（東京9月12日、大阪2021年2月20日）。受験3名、合格3名。
 - 準専門家：応募13名、書類審査に12名合格 アシスタント：応募5名、書類審査に5名合格
- (3) 定期総会・講演会の開催
 - 日時：2020年4月21日（火） 15:00～17:00 オンライン開催（zoom）
 - 講演1：野中 隆（株式会社ノーリツ）「人間工学の入浴行為への活用と可能性の模索」

講演 2：山崎 友賀（三菱電機株式会社）「三菱電機におけるユニバーサルデザインへの取り組み」

総会 2020 年 4 月 21 日（火） 17：00～17：40 出席者：42 名、委任状：59

(4) 幹事会の開催

第 44 回幹事会 日時：2020 年 10 月 2 日（金） 17：00～19：30 ネット会議（zoom）

臨時幹事会 日時：2021 年 1 月 15 日（月） 19：00～20：30 ネット会議（zoom）

第 45 回幹事会 日時：2021 年 3 月 18 日（木） 18：00～20：00 ネット会議（zoom）

(5) 再認定の実施

資格更新時期を迎えた人間工学専門家、人間工学準専門家へ再認定手続きについて連絡し、手続きを進めた。

(6) アンケートの実施

会員対象にオンラインアンケート『新型コロナウイルス感染症対応に関する緊急調査』を実施した。

（調査期間：2020 年 5 月 25 日（月）～6 月 3 日（水） 回答者 162 名）

結果は HP に掲載した。

(7) イベントの開催

CPE オンラインワークショップ&交流会

〈ワークショップ〉

内容：人間工学専門家としてのスキルアップについて みんなで考えるワークショップ

日程：2021 年 3 月 6 日（土） 13:00-16:00 参加者 28 名

〈交流会〉

内容：ワークショップ参加者有志にて、後日オンライン交流会を開催

日程：2021 年 4 月 9 日（金） 18:00-20:00 参加者 11 名

(8) ISO提案プロジェクト；ABW委員会の設置

2021 年度に機構の事業として、専門家の活躍の場を作るための ISO 提案プロジェクトに取り組むことに対して、機構会員へメール審議を行い、委員会の設置を決定した。その後、会員を対象に新規委員を募集し、応募のあった 3 名を選任した。

(9) Web の改修

従来業者に依頼してきた会報のHP掲載を、事務局独自で発行・編集を可能にすることで会報発行を省力化、省コスト化、迅速化するためWebを改修した。

過去の会報、第1号～第63号までを「会報バックナンバー」内に保管した。

(10) 会報の発行

会報をweb版のみにした。（印刷版は年一回まとめ版として発行予定）

リニューアルした会報（第64号）を2021年2月26日に発行した。

(11) 人間工学グッドプラクティス（GP）賞への協力

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月のJES定時社員総会にて第8回の表彰を行った。

[臨時委員会・担当]

3-9. 若手支援委員会

{委員長：加藤 麻樹、副委員長：境 薫}

2020 年度は学生を対象とした大学院への進学、および修士課程学生の博士課程進学を支援するセミナーの開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大のためいずれも実現には至らず、オンライン環境を用いたセミナーの企画検討をすることとなった。

3-10. 企業活動推進委員会

{委員長：易 強、副委員長：佃 五月、善方 日出夫}

種要因の影響で2021年3月まで活動が一時中止となったが、4月からネットコミュニケーションツールを活用して活動再開する。

3-11. 人間工学戦略ロードマップ検討委員会

{委員長：三林 洋介、副委員長：中本 和宏}

- (1) 「戦略ロードマップ」の策定に向けて、ワーキンググループを設置し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を進めた。
- (2) ワーキンググループで人間工学に関する新たなニーズを引き出すための検討を進めるとともに「人間工学技術戦略ロードマップ2006年版」および「人間工学技術戦略ロードマップ(改訂1)2008年版」を基に、過去から現在を概観して振り返りを行った。
- (3) 人間工学未来戦略について現役学生から意見収集するための大会企画を検討した。

3-12. 国際誌検討委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：村木 里志、下村 義弘}

- (1) 人間工学領域の国際誌動向分析およびニーズ分析を行った(研究力分析ツール SciVal を用い、SCOPUS top10% journals、SJR ランキング、人間工学研究トピックのFWCI、学術アウトプットのページビュー数、ジャーナル名など、近年の人間工学系ジャーナルの研究動向を調査した)。
- (2) 第一回キックオフ会合を開催した(2021/01/14)。「理論と実践の橋渡しを促進させるジャーナル」として、理論・実践・科学コミュニケーションの観点から特色作りをすることで、これまでにないユニークかつ人間工学の学際性をアピールするジャーナルを創設する方向で議論を重ねた。

3-13. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長：柴田 隆史、副委員長：岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく、そして実用的なガイドラインの作成を検討してきた。これまでに委員会のウェブサイトを作成し、学校での ICT 機器利用において安全面や健康面の配慮をした方がよい点をまとめ、情報公開している。
- (2) 文部科学省による GIGA スクール構想を背景とし、児童生徒が 1 人 1 台の情報端末を利用することを踏まえ、委員会ウェブサイトの活用や社会への貢献について議論した。
- (3) 委員会の取り組みを、文部科学省「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議」において紹介した。

3-14. 第 61 回大会担当

{担当：村田 厚生}

COVID-19 の感染拡大状況を鑑みて、広島県尾道市での日本人間工学会第 61 回大会は中止とした。第 61 回大会の発表予定者(185 件)のうち、希望者については J-stage 上に講演原稿を掲載し、誌上発表とした。合計で 139 件の論文を掲載した。掲載した論文の内訳は下記の通りであった。

<内訳・論文種別>

一般企画シンポジウムとして投稿：25件

一般演題として投稿：114件

<内訳・会員種別>

名誉会員・賛助会員：5件

正会員：71件

準会員（学生）：17件

非会員：15件

非会員（学生）：31件

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 支部役員会

1) 定例役員会

日時：2020年9月25日（金）

場所：持回り

議題 令和元年度北海道支部事業報告、令和元年度決算並びに監査報告、令和2年度北海道支部事業計画
令和2年度北海道支部予算執行計画、令和2年度北海道支部大会及び総会の予定
令和3年度北海道支部大会及び総会の計画、その他

(2) 令和2年度北海道支部総会並びに大会

大会長：平沢 尚毅（小樽商科大学）

日時：2020年11月28日（土）12:00～

場所：Web会議（Zoom）

1) 支部総会議題

議題 令和元年度北海道支部事業報告、令和元年度決算並びに監査報告、令和2年度北海道支部事業計画
令和2年度北海道支部予算執行計画、令和3年度北海道支部大会及び総会の計画、その他

2) 支部大会

13:00～13:05 開会の辞 大会長：平沢 尚毅（小樽商科大学）

13:05～15:15 一般演題 座長：平沢 尚毅（小樽商科大学）

1. ペットボトルの開栓性向上のための実験的検討/足利真実, 小林 大二（公立千歳科学技術大学）
2. ジェム瓶の開封性に関する人間工学的検討/田元朱子, 小林大二（公立千歳科学技術大学）
3. 剪定動作の技能伝承のための分析的検討/久美屋憲太, 小林大二（公立千歳科学技術大学）
4. 大腿義足使用者を対象とした義肢・装具ユーザー満足度評価尺度（OPUS-CSD日本語版）の試用/佐藤健斗, 昆恵介, 春名弘一, 三富菜々, 野坂利也, 佐藤ケイト（北海道科学大学）
5. 仮想現実を用いた体幹機能評価・トレーニングコンテンツの提案/記田くるみ, 加藤士雄, 田中敏明（北海道科学大学）中島康博（北海道立総合研究機構）
6. 仮想空間における自己位置感覚がタスクのパフォーマンスに及ぼす影響/菊地晟司, 小林大二（公立千歳科学技術大学）
7. ロボットスーツによる支援負荷の違いが歩行に与える影響/松村亮, 加藤士雄, 田中敏明（北海道科学大学大学院）
8. エスノグラフィによる千歳市の公共交通サービスに対する高齢者の要求事項の検討/情野元樹, 富樫謙太, 小林大二（公立千歳科学技術大学）
9. 自動運転バスの運用に係るステークホルダーの考察/船木雪乃, 平沢尚毅（小樽商科大学）, 工藤洋太, 賀俊傑, 門脇駿太, 吉武良治（芝浦工業大学）

15:15～15:30 休憩

15:30～16:40 シンポジウム『コロナ禍の下での人間工学活動』

司会 平沢尚毅（小樽商科大学）

- ・実験心理学演習科目のオンラインコンテンツの構築 - パンデミック下における早稲田大学人間科学部の事例紹介-加藤麻樹（早稲田大学）
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止下での人間工学演習 - 千葉大学デザインコースでの授業事例 - /下村義弘（千葉大学）
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止下での対応について - 北翔大学インテリア建築分野の講義・演習を事例として - /千里政文（北翔大学）
- ・サービス改善のためのリモートユーザー調査 - 業務ツール改善における実践例- /野川智史（ヤフー（株））

4-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

(1) 東北支部定時総会

- ・日時：2020年7月22日から7月31日18時まで（メール審議）
- ・場所：電子メールによる開催
- ・議題：1. 令和元年度事業報告、2. 令和元年度決算報告（案）、3. 令和2年度事業計画（案）、4. 令和2年度事業予算（案）

(2) 支部役員会

1) 第1回役員会：

- ・日時：2020年12月19日（土）13:20～13:50
- ・場所：山形テルサ研修室B室（山形市）（オンラインによるハイブリット開催）
- ・議題：理事会報告、次回（3月）研究会の開催などについて

2) 第2回役員会：

- ・日時：2021年3月20日（土）13:00～14:00
- ・場所：オンライン開催（東北大学青葉山キャンパス（仙台市））
- ・議題：理事会報告、来年度の活動方針、新支部会員との情報交換について

(3) 支部研究会

1) 第1回研究会：

- ・テーマ：ものづくり現場における人間工学 Part V
- ・企画：山口俊憲（山形県立産業技術短期大学校）・本多薫（山形大学）
- ・日時：2020年12月19日（土）14:00～15:30
- ・場所：山形テルサ研修室B室（山形市）（オンラインによるハイブリット開催）
- ・趣旨：同一テーマで5回目となる今回の研究会では、製造現場において重量物を運搬する際の負担軽減を目的とした“からくり装置”を開発・運用し、働きやすい職場環境の実現に向けた改善に取り組んでいる中小企業の活動内容についてご紹介頂いた。この話題を通して、人間工学がものづくり現場において貢献できることを再確認するとともに、新たな取組みの可能性について考えることができた。
- ・趣旨説明：“引き算”で取り組む現場改善 山口俊憲（山形県立産業技術短期大学校）
- ・講演：重量物の運搬負担を軽減するからくり装置の開発 後藤太輝氏（山形県立産業技術短期大学校産業技術専攻科・社会人学生）

2) 第2回研究会：

- ・テーマ：医療・看護と人間工学（安全人間工学委員会・東北支部 共催）
- ・企画：狩川大輔（東北大学）・高橋信（東北大学）
- ・日時：2021年3月20日（土）14:00～16:15
- ・場所：オンライン開催（東北大学青葉山キャンパス（仙台市））
- ・趣旨：近年、複雑な産業システムの安全かつ安定的な稼働を実現する上で、人間の持つ変化に対する柔軟な適応能力（レジリエンス）の重要性が広く認識されるようになってきました。「医療・看護」は、まさに常に変化し続ける状況に対応しながら、高い安全性とサービスの質を両立させることを求められている分野といえるでしょう。安全人間工学委員会と東北支部による今回の共催研究会では、そのような医療・看護分野からお二人の講師の先生方をお招きし、医療・看護の現場の最前線で仕事をする人々を支えるための技術や新たな考え方に基づく安全マネジメントの取り組みについて、ご講演頂いた。それを踏まえて、人間のレジリエンスを生かした新たな安全を実現する上で、人間工学がどのような貢献ができるのかについて議論を深めた。
- ・趣旨説明：趣旨説明と講師紹介 狩川大輔（東北大学）
- ・講演1：センサーを用いた生体信号測定装置の製作と看護研究への応用 小野保氏（岩手医科大学 教養教育セ

ンター 情報科学科医用工学分野・講師)

- ・講演2：レジリエントヘルスケアの実践：境界を越えて協働する 中島和江氏（独立行政法人労働者健康安全機構・理事 / 大阪大学医学部・招聘教授）

4-3. 関東支部

{支部長：矢口 博之}

- (1) 第50回関東支部大会・第26回卒業研究発表会

開催日：2020年12月12日(土)～13日(日)

会場：東京海洋大学 越中島キャンパス (Zoomによる遠隔開催)

大会長：村井 康二先生 (東京海洋大学)

参加者115名 (正会員：32、非会員：4、学生：79)

演題数47件 (一般演題4セッション14件、卒業研究6セッション23件、企画3セッション10件)

特別講演：4件

- ① 海難防止とノンテクニカルスキル 竹本孝弘先生 (東京海洋大学)
- ② 重要文化財 明治丸-建造から重要文化財までの道のり-國枝佳明先生 (東京海洋大学)
- ③ 東京海洋大学練習船「汐路丸」による遠隔操船実証実験 庄司るり先生 (東京海洋大学)
- ④ フッ化物によるう蝕予防について 戸田真司先生 (神奈川歯科大学)

- (2) 支部委員会、支部総会

1)開催日：2020年12月12日(土)

2)会場：東京海洋大学 越中島キャンパス (Zoomによる遠隔開催)

- (3) 講演会

1)日時：2021年3月24日(水) 15:00～16:10

2)場所：zoomによるオンライン開催

3)講師 稲永 潔文氏 (サザン音響 代表取締役)

4)演題：ウェアラブルオーディオ機器の測定と人間工学

- (4) ニュースレターの発行:

メーリングリストにより支部大会・総会の案内、講演会の案内を発行

4-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催

開催日時：2020年5月30日(土) 15:00-15:30

開催方法：オンライン会議

参加人数：23名 (委任状42名)

- (2) 講演会の開催

開催日時：2020年5月30日(土) 15:45-16:45

開催方法：オンラインセミナー

演題：公開討論：COVID-19の危機に対して人間工学ができること

オーガナイザー：名古屋市立大学 医学研究科 榎原毅 先生

参加人数：85名

- (3) 支部役員会

第1回支部役員会：2020年5月30日(土) オンライン開催

第2回支部役員会：2020年10月30日(土) オンライン開催

第2回支部役員会：2021年3月20日(土) オンライン開催

(4) 日本人間工学会東海支部 2020 年研究大会の開催

開催日：2020年10月30日(土)

開催方法：オンライン開催

大会長：三重県立看護大学 斎藤 真 先生(東海支部支部長)

概要：一般講演2演題、参加者22名

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初開催を予定していた三重県立看護大学(大会長 大西範和先生)を2021年研究大会に延期し、修了要件として学会発表を必要とする大学院生を対象にオンラインで開催した。

(5) 支部規約の改正

副支部長の増員ならびに委員定数の変更(支部規約第3条の改定)

支部総会成立要件の追加(支部規約第12条の改定)

4-5. 関西支部

{支部長:久保 博子}

【2020年度事業】

(1) 企画・行事等

1) 第1回見学会

日 程：2020年12月1日(火) 15:30~17:00

見学先：NEXT21(オンライン見学)

内 容：実験住宅の見学, 解説

参加者：24名(正会員14名, 準会員2名, 非会員8名(うち, 学生8名))

2) 2020年度日本人間工学会関西支部大会

開催日程：2020年12月12日(土)

会 場：京都女子大学(オンライン開催)

大会長：山岡 俊樹先生(京都女子大学)

参加者：合計67名

(正会員37名, 学生非会員20名, 学生会員2名, 非会員7名, 顧問1名)

内容：・一般講演 20件(4セッション)

・企画講演 9件(3セッション)

・特別講演「文化財建造物に伝わる職人の技と道具 —修復を通じた保存継承—」

鶴岡 典慶 先生(京都女子大学 教授)

3) 2020年度 日本人間工学会関西支部・ビッグデータ人間工学研究部会共催セミナー (支部総会と併催)

日 程：2021年3月27日(土) 15:00~17:00

会 場：オンライン開催

共 催：ビッグデータ人間工学研究部会

講 演：榎原 毅 先生(名古屋市立大学 准教授)

「人間工学研究でありがちな統計怪析?の落とし穴—データの質と研究の質について考えよう—」

参加者：合計55名(正会員・関西支部顧問45名, 一般9名, 学生10名)

※ 学会誌 人間工学に開催報告掲載予定

(2) 会議・総会等

1) 第1回幹事会 2020年9月17日(火) 18:00~20:00, Zoomによるオンライン開催

2) 第1回評議員会・役員会合同会議 2020年12月12日(土) 12:30~13:20, オンライン開催

- 3) 評議員選挙
投票用紙発送：2020年12月 28日(月)
投票締切：2021年1月18日(月) (消印有効)
開票作業：2021年2月5日(金) (場所：奈良女子大学事務局を拠点としたオンライン実施)
- 4) 第2回幹事会 2021年2月10日(水) 18:00～19:30, Zoomによるオンライン開催
- 5) 第2回評議員会 2021年3月2日(火) -13日(土), メール審議、優秀発表賞の決定
- 6) 2020年度会計監査 2021年3月24日(水) メール審議
- 7) 第2回評議員会・役員会合同会議 2021年3月27日(土) 13:00～13:50(予定), オンライン
- 8) 支部総会(本会議) 2021年3月27日(土) 13:00～13:50(予定), オンライン
(出席者：出席者34名, 議長への議決権委任30名, 計65名)
- 9) 優秀発表賞授賞式(支部総会と併催), オンライン(50音順)
 - 1) 高島由衣(京都女子大学)「視覚, 聴覚および触覚が心理的距離に与える影響」
 - 2) 西尾真樹(京都工芸繊維大学)「しゃがみ込みの動作分析- 関節角度と重心軌道の観点から -」
 - 3) 松本千奈(京都工芸繊維大学)「ピアノによる2オクターブ上下行ハ長調音階の連続打鍵操作におけるミスの分類および特徴抽出」

4-6. 中国・四国支部

{支部長:内野 英治}

- (1) 支部理事会開催
第1回：2020年12月11日(金)～12月15日(火) メール審議
第2回：2021年3月26日(金)～3月31日(水) メール審議
- (2) 支部代議員会開催
2020年12月18日(金) オンライン開催
報告事項：
第7期支部役員, 2019年度事業報告・決算報告, 本部理事会報告, 日本人間工学会第61回大会報告,
第62回・第63回大会開催予定報告, その他
審議事項：
2020年度事業計画(案)・予算(案), 支部大会の開催予定, 支部規程の確認, その他
- (3) 日本人間工学会中国・四国支部大会
日本人間工学会第61回大会(尾道市, 6/13-6/14)を中国・四国支部が当番で実施する予定であったため2020年度の支部大会は実施しないこととした。第61回全国大会はコロナ感染症の拡大に伴い, 現地での開催を見合わせ, 講演論文集は「人間工学第56巻特別号(Supplement)」に掲載した。
- (4) 2020年度支部表彰の実施
(3)の支部大会の不開催に伴い, 2020年度の実施なし。

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長:村木 里志}

- (1) 2020年度支部代議員会
 - 1) 月 日:2020年12月20日(日)
 - 2) 会 場:オンライン
 - 3) 議 題

- ・2019 年度会計報告
- ・2020 年度活動計画と予算案
- ・2021 年度活動計画
- ・その他

(2)2020 年度支部総会

1) 月 日:2020 年 12 月 20 日 (日)

2) 会 場:オンライン

3) 議 題

- ・2019 年度会計報告
- ・2020 年度活動計画と予算案
- ・2021 年度活動計画
- ・その他

(3)九州・沖縄支部第 41 回大会

1) 月 日:2020 年 12 月 20 日 (日)

2) 会 場:オンライン

3) 大会長: 小崎智照 (福岡女子大学国際文理学部)

4) 発表演題数: 特別企画 (ワークショップ) 1 件, 一般講演 20 件

5) 参加者: 42 名

6) 特別企画 (ワークショップ)

金子秀樹 (二ホンサンテック株式会社) 「生体電気信号の測定法について」

7) 表彰

・最優秀発表賞

「会話ロボットにより体温と経皮的血中酸素飽和度の測定をサポートするシステム」

桑原大 (長崎県立大学情報システム学部)

・優秀発表賞

「肘関節の拘縮改善に向けた Tilt Table 使用の検討 – 傾斜角度と上腕三頭筋活動との関係 –」

大西熙 (九州工業大学大学院生命体工学研究科)

「様々な箸動作の人間工学的分析方法の検討」

波多野優 (千葉大学大学院融合理工学府)

5. 研究部会活動

5-1. 衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

(1)活動テーマ

2012年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動している。2020年度は、2月にアパレル産業の視点から持続可能な社会について考える講演会としてzoomによるオンライン研究例会を企画した。また、コロナ禍で衣服人間工学部会としてできることはないかという役員による議論より、パンデミック時におけるグリーンファッションという位置付けで、防護服をテーマとした活動も考えられる。このための準備として、防護服を知るための企画勉強会を計画した。

(2)活動内容

1) 研究例会

- ・開催日：2021年2月20日（土） zoomによるweb講演会
- ・講演者：茨城大学 准教授 長田華子氏
- ・参加者：衣服人間工学部会部会員 一般 50名
- ・テーマ：「ファストファッションの裏側 ―バングラデシュにおける縫製工場の現状と課題―
作り手が報われる社会とは」

ファストファッションの定義、国外生産に頼る日本のアパレル産業の現状、バングラデシュの縫製産業の興りと現状、バングラデシュの縫製工場で働く女性の事例よりみた労働現場の実情、ジェンダーの平等とSDG's、持続可能な衣服の生産と消費として何をなすべきか、についてわかりやすく示唆に富む講演内容で、活発な質疑応答があった。Webでの開催であったため、幅広い地域からの部会員の参加があった。また家庭科教員や環境問題に関心の高い一般の方の参加も多く、今後の研究例会の開催方法を考えるきっかけともなった。

2) 企画勉強会

- ・開催日：2020年10月31日（土） zoomによるweb勉強会
- ・講師：(有)ランクス・コーポレーション 代表取締役（一社）日本販社材普及協会 副会長 金子実氏
- ・参加者：衣服人間工学部会役員5名
- ・テーマ：「防護服についての基礎知識」

防護服の基本になる制服についての考え方、身を守る 商品を守るための防護とは、様々な社会情勢の進化にあわせた新素材の開発と採用、医療用の防護服について、医療用防護服の構成や形など、防護服の基本的な市場と現在の状況についての知識を得た。次年度以降の研究例会の企画に活用する。

3) 役員会

Zoomによる役員会を4回開催した。その他例会の打ち合わせなどのメール会議を頻繁に行った。

- ・第1回役員会：2020年7月25日（土）
- ・第2回役員会：2020年9月15日（土）
- ・第3回役員会：2020年10月31日（土）
- ・第4回役員会：2021年2月20日（土）

5-2. 航空人間工学部会

{部会長:竹内 由則}

(1)研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンフ

アクター研究にかかわる進展、事件事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 例会（公開講座）

下記の要領で開催を計画していたが、新型コロナウイルスに関わる参加者の人数制限、感染予防措置の必要性等により、中止とした。

- ・日時：2020年10月13日(火) 10:00-16:30（例年6月、オリパラのため時期変更）
- ・場所：野村不動産天王洲ビル2F
- ・演題：部会関連組織および部外組織からの講師による5演題

2) 施設見学会

下記の要領で実施を計画していたが、新型コロナウイルスに関わる感染予防措置の必要性等により、中止とした。

- ・日時：2021年1月10日(火) 14:30-16:00
- ・場所：東京臨海広域防災公園・そなエリア東京

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示を行った。

4) 委員会・幹事会の開催

A. 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するための委員会の開催は、例会の中止をはじめ、会計予算執行が無いことから、12月を中止とし年度報告の1回（3月）となった。

①メールによる報告（2020年12月25日）

議題：

- ・2020年度 委員幹事 名簿
- ・第1～3回 幹事会 議事録
- ・2020年度 予算予想収支報告
- ・見学会について

②第71回委員会（2020年度 第1回 委員会）

- ・日時：2021年3月11日（木）15:30-17:00
- ・方式：Zoomを活用したWEB会議

議題：

- ・2020年度 会計報告
- ・2020年度 事業報告
- ・2021年度 事業計画
- ・第102回例会の準備状況
- ・今後の予定

B. 幹事会

5回（6、7、11、1、3月）開催

適宜、幹事会を開催し部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させる事が出来た。

(3) 成果

本年度は、コロナ禍の影響により例会・施設見学を中止としたため、事業計画通りの実践ができなかったが、幹事会を例年より多く開催し意見交換を行ってきた。新たな取り組みとして、委員会及び幹事会をWEB形式にて開催することとし、新スタイルの構築を行った。

5-3. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。2020年度は「Future Experience」～ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型手法～」を活動テーマに、フューチャーエクスペリエンスの実践を中心に進め、三方よしのビジョン提案型デザイン手法のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：95名(正会員62名、学生会員33名、2021年3月31日現在)
- ・活動概要：2020年度は、コンセプト事例発表会1回、ワークショップ1回、幹事会4回、選挙等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 2020年度コンセプト事例発表会開催(2020年9月26日)

オンライン開催 参加者：74名

特別講演3件、口頭発表4件、ショートプレゼンテーション13件を実施。

- ◆「IBMにおけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)のためのデザイン方法論の紹介」
柴田 英喜(日本IBM)
- ◆「Society 5.0を考えるビジョンデザイン」
柴田 吉隆(日立製作所)
- ◆「富士通におけるDXのためのデザイン方法論と実践事例」
岩崎 昭浩(富士通)

2) ビジョンとUXデザイン～HCD事例発表会+Future Experience (FX)フォーラム開催(2021年1月29日)

オンライン開催 参加者：101名

発表4件、事例3件を実施。

- ◆「デザイン経営と七方よしの体験設計」
高橋克実(株式会社ホロンクリエイト)
- ◆「COVID-19 流行初期における医療現場との連携事例について」
細田彰一(日本工業大学)
- ◆「デジタル時代におけるビジョンづくりとFuture Experience Design」
上田義弘(y2.DesignConsulting)
- ◆「ウェルビーイングを高めるUI/UXデザイン：ビジョン実現へ向けて」
郷健太郎(山梨大学)
- ◆「図書館司書によるレファレンスはGoogle検索に勝てるのか?～RIGPによるレファレンス業務のノウハウ可視化と向上の取り組み」

中尾将志 (NPO 法人 Code for OSAKA)

- ◆ 「「Future of Service Design」 サービスデザインのこれまでとこれからを読み解く試み」
赤羽太朗 (株式会社コンセント)
- ◆ 「ビジョンデザインとアートの活用」
山崎和彦 (武蔵野美術大学)

3) 2020 年度 Future Experience ワークショップ (2021 年 3 月 12 日 - 13 日)

オンライン開催 参加者 : 32 名

特別講演 2 件、グループでの討論を実施。

- ◆ 「新しい信頼がつくる未来のインフラ「未来考古学」による未来の日常生活の提案」
柴田 吉隆 (日立製作所)
- ◆ 「企業における信頼と安心「クライシス対応から考えるユーザーファーストと伝え方」とは」
日野 隆史 (ヤフー株式会社)

※ワークショップによる討議内容は日本人間工学会学術集会開催報告に掲載 (早川誠二氏編)

4) その他の活動

- ・ FX_WG 活動中 (担当幹事 : 高橋、上田、笠松、郷、西内、早川、細田、山崎)
- ・ UD 実践ガイドライン WG 関連活動休止中 (担当幹事: 柳田、山崎、堀野)
- ・ FX 教育 WG (担当幹事 : 安藤、笠松、西内、細田、吉武)
- ・ ホームページ運用 (担当幹事 : 早川、高橋)
- ・ 学生会員に対する指導、啓蒙を実施 (担当幹事 : 安藤、笠松、西内、細田、吉武)
- ・ 会員及び幹事会メーリングリスト及び、ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営。
- ・ Slack による運営情報交換。
- ・ コロナ禍の影響で見学会は休止中。

(3) 成果と展望 :

- ・ 社会、環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス (FX) の概念を提唱し、ビジョン構築の手法を考察し、FX の実践的な手法について検討を行ってきた。
- ・ 今後は、FX のために進化させた Experience Vision の手法を教育の場に広げ、デザインやビジネス教育の現場でどのように指導していくかの検討を進めていきたい。

5-4. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長 : 笠松 慶子}

(1) 活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2) 手段・方法

- 1) 第 1 回研究会 : 2020 年 10 月 21 日 (水) オンライン開催 参加者 : 85 名
 - ・ 和井田理科 (株式会社 JVC ケンウッド・デザイン カスタマーエクスペリエンススタジオ)
 - 「利用状況をとらえたデザイン—JVC ケンウッド・デザインの人間中心設計 (HCD) 活動」
- 2) 第 2 回研究会 : 2021 年 1 月 20 日 (水) オンライン開催 参加者 : 65 名
 - ・ 田中麻未 (株式会社 FIT Japan)
 - 「デザイナーにとっての DfAM -Additive Manufacturing の現場から—」

3) 第3回研究会：2021年3月17日(水) オンライン開催(東京都立大学リサーチコア serBOTinQ との共催)
参加者：47名

・プロジェクト”serBOTinQ” シンポジウム2021「次世代モビリティとロボット技術」

【話題提供】茂木俊介(トヨタ自動車株式会社 カーデザイナー)、田中麻未(株式会社FIT Japan インダストリアルデザイナー)

ファシリテーター：相野谷威雄(ヴィー・ディー・エス株式会社 代表取締役)

【パネルディスカッション】笠松慶子(東京都立大学 教授)、相野谷威雄(ヴィー・ディー・エス株式会社 代表取締役)、野村淳二(元パナソニック株式会社 顧問)、山田園裕(元東海大学 教授、元株式会社メガチップス 取締役)、茂木俊介(トヨタ自動車株式会社 カーデザイナー)、田中麻未(株式会社FIT Japan インダストリアルデザイナー)

ファシリテーター：久保田直行(東京都立大学 教授)

4) 第29回システム大会の感性・官能セッション：2021年3月13日(土)において、若手研究者による発表講演を組織、支援した。なお、詳細はシステム大会部会より報告。

5) 幹事会の開催：オンラインにて1回開催。その他、メーリングリストにて情報共有、審議を行った。

(3) 成果及び展望

企業活動の中のHCD活動の実践例、ものづくりの現場においてデザイナーが技術をどのように活用しているか、これからのモビリティのあり方とロボット技術の活用について、企業を中心とした異業種の専門家が連携して、新たな価値創造を生むための試みが多くなされている現状の情報提供と情報交換の場を設け、各テーマについて議論することができた。日本におけるモノづくりの品質において、工学が関わる“当たり前の品質”とともに、新たに個人の主観に深く訴える感性価値や経験価値の重要性が増し、その品質の捉え方を探求していく必要性があると考えられる。

今後も引き続き、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究に関する、発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供して行きたい。

5-5. 海事人間工学研究部会

{部会長：才木 常正}

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの実施

2020年12月5日に開催された2020年度日本人間工学会関東支部第50回研究大会(東京海洋大学越中島キャンパス：オンライン)にて、下記の招待および企画セッションを実施した。

○招待企画セッション

テーマ：海上技術安全研究所の自動運航船の研究開発の紹介

目的：海上技術安全研究所は、人と船のインターフェースであるブリッジを模擬した操船リスクシミュレータを用いて操船を科学してきており、船の分野の一つの大きな話題である自動化についての取り組みについて紹介する。

オーガナイザ：吉村健志(海上技術安全研究所)

座長：國分健太郎(海上技術安全研究所)

講演：

1. 「自動運航船の避航アルゴリズムの開発とシミュレータ」

間島隆博、佐藤圭二、澤田涼平(海上技術安全研究所)

2. 「海技研における自動着岸システムの研究開発」

平田宏一(海上技術安全研究所)

3. 「自動運航船の実用化に向けた海上技術安全研究所の取り組み」

國分健太郎(海上技術安全研究所)

○企画セッション

テーマ：海における計測と評価

目的：人間工学に基づき設計されたシステムや製品を海事分野に導入するため、海では様々な計測や評価がなされており、その海で行われている計測や評価に関する最新の動向を紹介する。

オーガナイザ兼座長：吉村健志(海上技術安全研究所)

講演：

1. 「実習生を対象とした指差呼称の効果に関する研究 - 発声によるエラー顕在化の効果 -」

吉村健志、疋田賢次郎(海上技術安全研究所)、楠将史(独立行政法人海技教育機構)

2. 「船上スナップバックゾーン確保に向けた衛星活用の低減 - 甲板上における身体アセスメントの確立 -」

北村健一(鳥羽商船高等専門学校)、村井康二(東京海洋大学)

3. 「ダイビング・シュノーケルに実装した加速度センサによる発声検出」

瀧澤由佳子(兵庫県立工業技術センター)、荒木望(兵庫県立大学)、傍島浩史(株式会社キヌガワ)、
村井康二(東京海洋大学)、有馬正和(大阪府立大学)、
才木常正(兵庫県立工業技術センター／兵庫県立大学)

4. 「次世代操船シミュレーターを指向した課題提案 - “明るさ”環境について -」

小原左匡(株式会社日立物流)、戸羽政博(海技教育機構海技大学院)、村井康二(東京海洋大学)

2) 見学会の開催

2020年度日本人間工学会関東支部第50回研究大会の前日(2020年12月4日)に東京海洋大学の船舶運航情報を収集管理解析する「先端ナビゲートシステム」の見学会を予定していたが、COVID-19感染予防対策のために開催を中止した。

3) 幹事会の開催

2020年12月12日に東京海洋大学にて幹事会を開催し、2021年度の本研究部会の事業計画(案)を策定した。

(3) 成果

企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。また、当研究部会の会員メンバーで科研費・基盤研究Cに応募し採択され、その共同研究成果の一部を誌上発表することができた。

(4) 展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション及び見学会等を開催する。更に、当研究部会の活動を広く知ってもらうために、当学会以外にも積極的に情報を発信して行く。

5-6. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

(1) テーマ

テレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。またCOVID-19の感染拡大により在宅勤務が増加し、在宅で適切な作業環境を設定することが課題となってきた。そこで、研究部会ではテレワークや在宅勤務も念頭において、自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学専門家向けに提供する予定であったが、緊急事態宣言による在宅でのテレワークの拡大に対応するため、質問に回答するかたちで一般向けに知識を提供することを本年度の活動の目的とした。

(2)活動内容

- 1) 見学会・幹事会 2020年4月 (Think Lab飯田橋) の予定であったが中止となった。
- 2) 第61回大会における企画セッション「オフィスワークの人間工学ガイドラインの構成」(紙上発表となった)
 - ①オフィスワークの人間工学ガイドラインの構成(青木和夫: 日本大学)
 - ②作業疲労の自己管理の仕方(松田文子: 大原記念労働科学研究所)
 - ③作業環境の自己管理の仕方(北島洋樹: 大原記念労働科学研究所)
- 3) 幹事会 2020年8月7日 (Zoomにて開催)
- 4) テレワークの人間工学ガイドラインを一般向けに発行した。

本ガイドラインは人間工学専門家向けに作成する予定であったが、テレワークの急激な拡大に対応するために、一般向けのガイドラインをQ&A方式で作成した。このガイドラインは「在宅ワーク/在宅学習実施時のFAQ」(2020年9月10日)として学会HPに掲載した。また、このFAQの内容は中央労働災害防止協会の月刊誌「安全と健康」11月号(2020年11月1日発行)に掲載され、読者はがきに参考になったとの回答が多く「まさに知りたかったことを知れた」との自由回答があった旨同協会編集部より報告があった。

(3)成果と展望

予定していた見学会が中止となり、対面での会議が困難な状況の中、Zoomによる幹事会を開催し、一般向けのテレワークの人間工学のFAQを作成し公開することができた。このFAQは労働安全衛生関連の団体の発行する月刊誌に引用され、とても役に立ったとの評価を得られた。また第61回大会は紙上発表となったが、ガイドラインの内容に関するシンポジウム原稿がJ-stageに掲載され、今後のガイドライン作成の有用な資料となった。

5-7. 自動車人間工学研究部会

{部会長: 石橋 基範}

(1)活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

1) 将来モビリティに関する議論

自動運転や「空飛ぶクルマ」等の新技術領域で、社会デザインや働き方デザインの面からQOLや人間生活のあるべき姿について議論する。当面は自動運転にフォーカスする。

2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

コックピット、先進運転支援システム(ADAS)、デザイン、運動性能等、従来の自動車開発領域で人間工学の適用事例を共有し、「使える人間工学」に持って行くアプローチについて議論する。

(2)方法・手段

- 1) 上記1)を主たるテーマとして、研究部会として独自に講演会(オンライン形式を検討)を開催する。
- 2) 第62回大会で研究部会独自のシンポジウムを企画・提案する。

(3)成果

- 1) 研究部会独自の講演会は未達となった。
- 2) 第62回大会で以下の内容で研究部会企画シンポジウムを企画・提案した。
 - ・テーマ: 将来モビリティの実証実験の最前線
 - ・内容:
 - 都市生活者の志向に基づくこれからのモビリティサービス(東京都市大・西山敏樹)
 - 西播磨MaaS実証を通じた利用者受容性に関する考察(名古屋大・中村俊之)
 - 全体ディスカッション

5-8. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：吉武 良治}

(1)活動目的

- 1) ビッグデータを用いた人間行動の予測
- 2) 延期した2件のイベントの開催および新規イベントの開催
- 3) ビッグデータ人間工学ノウハウサイトの構築

(2)手段・方法

1) 幹事会の運営

幹事会運営のため、SNS(Slack)でのオンラインの情報交換を開始し、活用している。

2) 講演会・セミナーの開催

- ・ 第2-1回ビッグデータ人間工学講演会(2020/10/07) ※前年度延期分
「人とICTが共創する産業用IoTとデジタル変革」
安達 直矢先生(横河ソリューションサービス株式会社)
オンライン開催、参加者16名
- ・ 第2-2回ビッグデータ人間工学講演会(2021/02/23) ※前年度延期分
「定量と定性のあいだ - 生活者の行動・意識の変化に対応するアフターコロナのデータ分析 -」
末吉 美喜先生(株式会社メディアチャンネル)
オンライン開催、参加者約40名
- ・ 関西支部 ビッグデータ人間工学研究部会共催セミナー(2021/03/27)
「人間工学研究でありがちな統計怪析?の落とし穴 -データの質と研究の質について考えよう-」
榎原 毅先生(名古屋市立大学)
オンライン開催、参加者64名

(3)成果

ビッグデータの人間工学分野での活用を目指し、講演会、セミナーを開催した。

安達先生の専門分野であるプロセスオートメーションでは、その制御の困難さとそれをどう克服するのかを解説いただいた。外から見えないプラント内部をいかに可視化するかは、同様に人間の見えない内面をどう探るかという問題に通じるものがあり、今後の人間工学の研究の考え方の参考になった。

末吉先生の提言、「新たな価値を生み出すためには、定性的研究と定量的研究の双方のあいだを行き交うことが必要であり、それにより未知の領域を発見できる」は、フィールドでの人間工学調査の新しい指針になる。

榎原先生によるセミナーでは、因果推論について詳述された。ビッグデータの活用シーンでも、事象の相関関係を知るまでで終わるか、因果関係に辿り着けるかは重要である。人間工学の専門家として、ビッグデータを用いた調査研究において、因果関係を立証できるかどうかを念頭に置くことが重要であることが再認識された。

研究部会活動の成果として、これまでに開催してきた勉強会、講演会、セミナーを通じて、人間工学的調査研究領域でのビッグデータの捉え方の大枠が明らかとなった。

5-9. PIE 研究部会

{部会長：大須賀 恵美子}

(1)活動目的

従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と役に立つPIEに向けて共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2)方法・手段

日本人間工学会大会および支部大会等で企画セッション・講演会・ワークショップを開催する。

部会員への情報発信を円滑に行い充実させる。

(3) 成果

- 1) 第61回全国大会(2020.6.13-14, 尾道)において, シンポジウム「続・ポジティブ心理学生理学」を企画し, 片平 建史先生(関西学院大学)による特別講演「フロー状態の生理計測の意義と実際」を企画したが, COVID-19の感染拡大のため中止となった。
- 2) 関西支部大会(2020.12.12, 京都, zoomによるオンライン開催)において, 企画セッション「コロナ禍における生理心理実験の課題とグッドプラクティス」を開催した。感染症拡大によって対面実験が困難な局面下において, 大学や企業の状況や工夫などについてディスカッションを行った。参加者:13名。(学会誌 人間工学57(2)に学術集会参加報告掲載予定(執筆者:倉岡 宏幸))
- 3) 日本人間工学会のWebサーバ領域に研究部会のWebサイトを移設し内容もリニューアルした。また, 会員名簿の連絡先を確認後, メーリングリストも学会で新規発行し不達管理を依頼することとした。

参考:2021年3月31日現在 部会員数61名(うち, 日本人間工学会非会員26名)

5-10. 科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

(1) 活動目的

- 1) 部会の設立とロードマップの確立
- 2) 幹事会と部会企画のスタートアップ
- 3) 人間工学の社会実装促進
- 4) 部会設立目的①~⑥を果たすための基盤構築:①科学コミュニケーションのためのアクションチェックリストの開発、②科学コミュニケーションに関するリテラシー教育機会の提供(研究会の開催)、③市民科学(一般市民の方に科学の担い手になってもらい, 参加型・共創型研究を展開するスキーム)に基づく, 科学コミュニケーションの社会実装(ワークショップ等の開催)、④科学コミュニケーションに関する学術知見の情報発信方法の指針策定(人間工学研究成果の効果的な社会発信方法の検討)、⑤関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携、⑥科学コミュニケーションのグッドプラクティスの収集と発信。

(2) 手段・方法

1) 幹事会の運営

- 第1回 2020年7月2日(木) 10:30~12:00 ウェブ開催
主議題「部会のミッションについて」
- 第2回 2020年8月31日(木)10:00~12:30 ウェブ開催
主議題「部会のキックオフイベント(オンラインシンポジウム)について」
- 第3回 2021年2月12日(金)10:00~11:30 ウェブ開催
主議題「JES全国大会の部会企画について」
- 第4回 2021年3月16日(火)18:00~19:00 ウェブ開催
主議題「人間工学分野における科学コミュニケーションの共通理解に向けて」

2) キックオフイベントを企画

- 企画:「第1回人間工学を社会に活かすためのサイエンスミーティング」
テーマ:「コロナ禍で役立てよう!人間工学の科学的知見」
日時:2020年9月24日(木) 17:00~18:30
場所:オンライン開催(Zoom)
対象:会員・非会員

プログラム：①講 演：八木絵香「科学コミュニケーションを知ろう！－「人間工学」と「科学コミュニケーション」の交点を探る－」

②話題提供：庄司直人「科学コミュニケーションを实践しよう！－コロナ禍の感染拡大・重症化抑止と社会活動の両立に向けた人間工学ナッジの提案－」

③情報交換：参加者との意見交換・フィードバック収集

(3) 成果

- 1) 部会幹事の中で部会の設立趣意を確認し、具体的な活動について議論した。
- 2) 部会のキックオフイベントとしてオンラインシンポジウムを開催し、34名（大学・研究所21名、企業9名、学生4名）の参加者からコロナ禍における人間工学の役立て方や、科学コミュニケーションそのものの捉え方、部会に期待することについてのご意見やフィードバックを収集した。
- 3) 幹事会や部会企画を通して、科学コミュニケーションに対する認識や興味関心、部会に期待する役割は極めて多様であることが明らかとなり、部会として何に着手するにしても、まずは科学コミュニケーションについて部会幹事・部会員・学会員のコンセンサスをはかるべきとの共通認識に至った。

5-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ：

本部会は約30年前、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称し発足、現在システム部会として活動を行なっている。年一回三月に開催される学術集会（システム大会）であるが、新型コロナウイルス COVID-19 感染リスクの観点から物理的な集会は中止し、Zoomを用いたOnline形式にて実施した。開催日数・演題数等、規模の大幅な縮小は避けられなかったものの、昨年引き続き新たな発表方式の提案が行え、極めて成功裏に終えるができた。今後訪れる可能性のある大規模災害への対策を始め、グローバル化の進む現在、Internet上での会議実施は新たな発表方式として極めて有益な知見が得られたものとする。同大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

○システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：2020年7月4日(土)15:00～16:00

方法：ZoomによるOnline会議

議題：第28回システム大会収支報告・第29回システム大会開催方法の討議等

・第2回システム大会幹事会

日時：2020年10月17日(土)15:00～16:00

方法：ZoomによるOnline会議

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：2021年2月20日(土)15:00～16:00

方法：ZoomによるOnline会議

議題：システム大会プログラム作成および大会開催最終確認

(3) 展望：

発足時は大会幹事研究室所属学生の研究発表の性質が強かったシステム大会であるが、近年全国の研究者より演題が集まるようになった。より開かれた学会を目指し、さらなる他分野の研究者の参加、英文機関紙 (Journal of Ergonomic Technology: JET) の発行を推進し、JES発展に向けて積極的展開を目指している。

Ⅲ. 2021年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：石橋 基範、中川 千鶴}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、安寧な社会システムを構築するために寄与することを目指す。
- (2) 第62回大会を大須賀美恵子大会長のもと2021年5月22日(土)～23日(日)にオンラインで開催する。
- (3) 2021年定時社員総会を2021年5月23日(日)に学会事務局およびオンラインにおいて開催し、2020年度事業報告・収支決算、2021年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第63回大会を村田厚生大会長のもと2022年6月11日(土)～12日(日)(予定)に尾道市市役所本庁舎、尾道市民会館、しまなみ交流館(予定)で開催することとし準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページならびにニューズレター等を中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」に基づき、論文投稿推進策の整備と運用を進める。学会誌「人間工学」の第57巻2～6号および第58巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナー等を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、人間工学戦略ロードマップ検討委員会、国際誌検討委員会、子どものICT活用委員会、選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会、第62回大会担当および第63回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。衣服人間工学部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、自動車人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE研究部会、科学コミュニケーション部会、システム大会部会の計11研究部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)およびACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEAからの情報の国内展開、およびJES情報の海外発信、IEA評議会およびACEDへの出席準備、IEAアワード申請への協力、IEAおよびACED内の各委員会の協力、JES-ESKジョイントシンポジウムの企画などを行う。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/SC1、TC159/SC3、TC159/SC4、TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。インタラクションが成功する要因に関する国際標準について規格提案に資する活動を行う。
- (13) 2021年度各賞の授与式を行う。また、2022年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (16) 研究者としての若手会員を支援するため、特に博士課程進学後のキャリア形成に役立つゲストを招き、オンラインによるセミナーを開催する企画を検討する。
- (17) ネットコミュニケーションツールを活用して、企業での人間工学活動を可視化し、学会の活動に参加する企業のメンバーの増強を目標とする。
- (18) 「戦略ロードマップ」を策定するための、委員会内にワーキンググループを設置し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を進める。

- (19) 日本人間工学会の公式英文誌の創刊を目指し、人間工学領域の国際誌動向分析およびニーズ分析等に基づき制度設計を進める。
- (20) 学校において子どもが安全で快適にICT機器を活用するための実用的なガイドラインについて、内容とともにその活用方法を検討する。
- (21) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会 {委員長：山田クリス孝介、副委員長：松岡 敏生、齋藤 祐太}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、事務局などと連携・協力のもと、ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内、社会発信等をホームページにて情報発信する。また、必要に応じて特設ページの運用も行う。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに、掲載事例を増加させるための方策について検討する。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めるとともに、学会事務局、各委員会と連携し、広報活動を行う。
- (4) HP のスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営を行う。
- (5) ヴァーチャル・ミュージアムの実現に向けた検討を進める。
- (6) Facebook 等 SNS の有効活用を検討する。

2-2. 編集委員会 {委員長：榎原 毅、副委員長：村木 里志}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う（紙媒体およびJ-Stage掲載）。
- (2) 学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」に基づき、論文投稿推進策の整備と運用を進める。
- (3) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備など、編集委員会業務の推進にあたり、各種委員会との協力・連携をはかる。
- (4) 編集委員会を原則年3回開催する。
- (5) 学会誌の新投稿区分、新査読方針・査読基準、査読者表彰制度、査読プロセスの短縮化など新たな制度を積極的に活用し、人間工学領域の発展を目指した投稿促進と新しい課題の共有を行い、学会誌を通じた学会員との対話の場を提供する。
- (6) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会 {委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) IEA 評議会(バンクーバー, オンライン)への出席
- (2) ACED 評議会(インド, 時期, 開催形態未定)への出席
 - (1) (2)については国際協力委員が JES からの council member として3名分の投票権執行
- (3) 国際協力活動およびその他
 - ・IEA アワード申請への協力
 - ・IEA 内の各委員会への協力
 - ・ACED 内の各委員会への協力
 - ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
 - ・学会誌への国際学会参加報告の執筆
 - ・国際誌検討委員会への協力
 - ・そのほか、JES 活動に関する海外への情報発信、国際協力委員会ウェブサイトの更新・広報など

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：佐藤 洋、副委員長：横井 孝志}

ISO/TC159（人間工学）分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2) 日本主導で審議が予定されている項目

- ・WG2(高齢者・障害者の人間工学)
 - ・ISO/TR 22411 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)
- ・SC1（人間工学の一般原則）
 - ・NWIP Ergonomics for children-Guideline for the design of products and services
- ・SC4（人間とシステムのインタラクション）
 - ・ISO/DIS 24509 Ergonomics - Accessible Design - Minimum legible font size for people at any age
 - ・ISO/CD 24500-1 Ergonomics - Accessible design - Part 1: Indicator lamps on consumer products
 - ・ISO/CD 24500-2 Ergonomics - Accessible design - Auditory signals - Part 2: Voice guides for consumer products
- ・SC5（物理環境の人間工学）
 - ・ISO/CD 14505-4 Ergonomics of the thermal environment - Evaluation of thermal environments in vehicles - Part 4: Determination of the equivalent temperature by means of a numerical manikin

(3) 国際会議予定

- ・TC159/SC3 関連会議、TC159/SC4 関連会議、TC159/SC5 関連会議ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：鴻巣 務}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、トップ10%査読者賞の選考を行い、各受賞者に対する授与式を行う。
- (3) 大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い、受賞者の所属する支部大会において授与する。
- (4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5) 本学会以外の IEA 等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：狩川 大輔}

- (1) 前年度に引き続き芳賀（委員長，社会安全研究所），狩川（副委員長，東北大学），鳥居塚（日本大学），佐相（電力中央研究所），細田（関東学院大学），藤野（福井県立大学）の6人で活動する。
- (2) 他の学協会と連携して、安全に関わる研究・実践活動に関する交流・情報交換の場をつくる。
 - (2-1) 日本学術会議主催「安全工学シンポジウム2021」を共催し、オーガナイズド・セッションを企画・運営するとともに、幹事学会（電気学会）はじめ関係学会と共にシンポジウム全体の運営を行う。
 - (2-2) 産業・組織心理学会部門別研究会を協賛し、研究会への参加を呼びかける。

- (2-3) 「安全・安心のための安全管理と社会環境ワークショップ」を日本品質学会等と共催する。
(3) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行う。

2-7. 学術担当

{担当:横山 清子、青木 洋貴}

- (1) 日本学術会議、文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的に注視していく。
- (2) 横断型基幹科学技術研究団体連合の理事として総会等に参加し、情報交換を行う。
- (3) 「人間工学研究のための倫理指針」について研究動向等から検討する。

2-8. 人間工学専門家認定機構

{機構長:八木 佳子、副機構長:鳥居塚 崇}

- (1) 資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・ 資格認定試験 (A 方式試験) を年 2 回、東京と大阪会場で実施する。
2021 年 9 月 11 日(土) 東京開催
2022 年 2 月 19 日(土) 大阪開催
 - ・ 準専門家・人間工学アシスタント審査を年 4 回程度実施する。
- (2) 定期総会、幹事会を開催する。
総会 日時:2021 年 4 月 30 日(金) 13:00~14:00
幹事会 (2 回開催予定)
- (3) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をする。
- (4) JES 内に CPE のビジョン発信及び活動紹介を行うため、全国大会等で発表及び PR する。
- (5) 機構ホームページ、会報、人材 DB (ERGO Directory)、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6) CPE セミナー、CPE サロン(交流会)等のイベントを充実させる。
- (7) 専門家の活躍の場を作るための ISO 提案プロジェクトに取り組む。
- (8) ガイドブックの改訂をする。
- (9) 「人間工学グッドプラクティス賞」(GP 賞) の審査に積極的に協力する。
- (10) ビジョン実現に向けた対外的活動を行う

[臨時委員会・担当]

2-9. 若手支援委員会

{加藤 麻樹、副委員長:境 薫}

若手会員 (20 代学部生・大学院生等) の研究キャリア形成を支援するために、土課程進学後の進路にかかるオンラインセミナーを開催することで、研究者の情報提供の場を設ける。

2-10. 企業活動推進委員会

{委員長:易 強、副委員長:佃 五月、善方 日出夫、}

- (1) 委員会活動の目的、目標

- 企業での人間工学活動をもっと可視化して、アクティブにするための活動を行う。
 - 日本人間工学会の活動に参加する企業のメンバーの倍増を目標とする。
- (2) アクションプランの作成
- 企業での人間工学活動の現状を把握する。各支部、委員会に参加している人からヒアリング、委員会のオブザーバーになっていただく。
 - 企業での人間工学活動のアクティブメンバーのネットワークを構築する。SNSや掲示板MLを活用して、相互訪問など連絡を密にする。抱えている案件、悩みを気軽に話し合える仕組みを検討する。
 - 目標を絞り、産官学の連携による短期的なプロジェクトを立ち上げて、活動するモデルを構築する。
- (3) 活動成果の顕在化
- 学会のホームページを通じて情報発信する。
 - 全国大会や地方大会で発表やシンポジウムを開催する。
 - 他の委員会と連携を取る。

2-11. 人間工学戦略ロードマップ検討委員会 {委員長：三林 洋介、副委員長：中本 和宏}

- (1) 「戦略ロードマップ」を策定に向けて、ワーキンググループを設置し、ビジョン、戦略、目標、施策の検討を継続して進める。
- (2) 支部大会などにセッションを企画し人間工学に関する新たなニーズを引き出すための懇談会実施を検討するとともに人間工学の過去から現在を整理する。
- (3) 若手支援委員会および企業活動推進委員会、他委員会、各支部と連携する。

2-12. 国際誌検討委員会 {委員長：榎原 毅、副委員長：村木 里志、下村 義弘}

学会の公式和文誌「人間工学」は日本の重要誌500誌のひとつとして選定され、当時のJournal @rchive事業で全電子アーカイブ化がなされるなど、和文誌としては国内有数の歴史を持つジャーナルのひとつであるが、日本人間工学会は学術成果の国際発信基盤の整備という面においては、周辺研究分野に比べ遅れている。日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、次のことに取り組む。

- (1) 発刊予定の国際誌が対象とする範囲・特色や投稿規程、各種プラットフォーム（出版社、投稿・査読システム、査読方針、掲載料など）ならびに組織運用体制などの制度設計
- (2) 国際誌の継続発行（持続可能性）に関する方策の検討（論文投稿者のボトムアップ・育成方策を含む）
- (3) 人間工学研究知見の社会還元を促進させるトランスレーショナル・ジャーナルに必要となる仕掛けの検討（国際誌のアウトリーチ戦略を含む）
- (4) その他、国際誌の発行・運営に必要な諸活動の実施

2-13. 子どもの ICT 活用委員会 {委員長：柴田 隆史、副委員長：岡田 衛}

- (1) タブレット端末や電子黒板などの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し、各種情報を交換するとともにガイドラインの考え方等を引き続き検討する。
- (2) 文部科学省による GIGA スクール構想などの状況を鑑み、学校教員のみならず、児童生徒に対しても分かりやすい人間工学ガイドラインを検討し、社会への貢献を図る。
- (3) ウェブサイトだけでなく、JES 以外の研究会や会議などの機会を活用して人間工学ガイドラインを周知させ、

改訂や効果検証等へフィードバックさせることを検討する。

2-14. 選挙管理委員会

{委員長：山田クリス孝介}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-15. 役員候補者推薦委員会

{委員長：吉武 良治}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する役員選挙に関わる次期役員候補者を検討し、推薦する。

2-16. 第62回大会担当

{担当：大須賀 美恵子}

【開催日】2021年5月21日（土）～22日（日）

【共催】大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部

【大会会場】オンライン（zoom利用）

【懇親会場】オンライン（詳細未定）

- (1) 大会企画特別講演1件
- (2) 企画シンポジウム11件
- (3) 一般講演（口頭発表）96件
- (5) 学・協会等から協賛（依頼中）
- (6) 大会案内はウェブサイト（<https://www.ergonomics.jp/conference/2021/>）を活用して行う。

2-17. 第63回大会担当

{担当：村田 厚生}

【開催日】2022年 6月11日（土）～12日（日）（予定）

【大会会場】尾道市市役所本庁舎，しまなみ交流館（予定）

COVID-19の感染拡大状況によっては、対面とオンライン形式併用で開催する可能性もある。

社員総会での3密を避けるために、社員総会と特別講演をしまなみ交流館にて、続きで行うことを検討中。

【懇親会会場】尾道国際ホテル（予定：3密が避けられるように、かなり広いスペースを確保できる）

COVID-19の感染拡大状況によっては懇親会を中止する可能性もある。

【内容】社員総会，特別講演，一般講演，シンポジウム等

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：平沢 尚毅}

(1) 会議

1) 支部役員会 2021年6月下旬 (予定)

- ・令和2年度北海道支部事業報告、令和2年度決算報告
- ・令和3年度北海道支部事業計画、令和3年度北海道支部予算執行計画
- ・令和3年度北海道支部大会及び総会、令和4年度北海道支部大会及び総会の予定
- ・その他

(2) 令和3年度支部総会並びに大会

日時：2021年11月頃 予定

場所：小樽商科大学札幌サテライトあるいはWeb会議 予定

1) 支部総会議題

- ・令和2年度北海道支部事業報告、令和2年度決算報告
- ・令和3年度北海道支部事業計画、令和3年度北海道支部予算執行計画
- ・令和4年度北海道支部大会及び総会の予定

3-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

(1) 支部役員会

- ・年3回以上開催予定 (支部研究会時に開催)
- 他、必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1) 日時：2021年5月上旬開催 (予定)

2) 場所：電子メールにて開催

3) 議事：2020年度事業報告、2020年度決算報告

2021年度事業計画案、2021年度事業予算案、など。

(3) 支部研究会

年3回の開催 (対面とオンラインのハイブリット) を予定。他支部や委員会等との共催や支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化と交流を目指す。

(4) その他

研究会では、研究者と企業人・実務家との意見交換を積極的に行う。

3-3. 関東支部

{支部長：矢口 博之}

(1) 第51回関東支部大会・第27回卒業研究発表会

1) 開催日：2021年12月 (予定)

2) 大会長：吉村健志先生 (海上・港湾・航空技術研究所)

3) 開催方法：Zoomによる遠隔開催を計画中

(2) 支部委員会、支部総会

1) 開催日：2021年6月・12月 (予定)

2) 開催方法：メール、Zoomによる遠隔開催を計画中

(3) 講演会

1) 日時：2022年3月(予定)

2) 場所：zoomによる遠隔開催を計画中

(4) ニュースレターの発行:

メーリングリストにより支部大会総会の案内、講演会の案内等を発行予定。

3-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

開催日時：2021年4月10日(土) 15:00-15:30

開催方法：オンライン開催

(2) 支部役員会

第1回支部役員会：2021年4月10日(土) オンライン会議開催

年2回から3回開催予定、必要に応じてオンラインまたはメール会議を開催

(3) 日本人間工学会東海支部2021年研究大会の開催

開催日：2021年10月30日(土)

開催場所：三重県立看護大学(三重県津市)

大会長：三重県立看護大学 大西範和 先生

産業保健人間工学会第26回大会と同時開催

(4) 東海支部企画

実務者・初学者のための人間工学測定技法講座の開催(Webinarも視野に入れて企画)

企業見学会の企画、開催

特別企画セミナー等を開催予定

3-5. 関西支部

{支部長：久保 博子}

(1) 企画・行事等

1) 2021年度 関西支部第1回見学会 2021年 6~8月頃(コロナ禍の情勢を見ながら計画)

2) 2021年度 関西支部ワークショップ 2021年10月頃~12月

3) 2021年度 関西支部 第2回見学会(支部大会のプレ企画として実施を検討中)

4) 2021年度 日本人間工学会関西支部大会

大会長：久保 博子(奈良女子大学)

開催日：2021年12月11日(土)

会場：奈良女子大学(オンラインの併催も検討、詳細は4月以降)

(2) 会議等

1) 第1回幹事会 2021年 6月

2) 第1回評議員会・役員会合同会議(支部大会と併催) 2021年11-12月

3) 2022~2023年度 支部長・副支部長、評議員選挙 2021年11月~2022年1月

4) 第2回幹事会 2022年 2月

5) 第2回評議員会(メール審議) 2022年 2月

6) 2021年度会計監査 2022年 3月

- 7) 第2回評議員会・役員会合同会議 2022年 3月
- 8) 2021年度関西支部総会 2022年 3月
- 9) 2021年度支部大会優秀発表賞表彰式 2022年 3月

※7～9は併催予定

その他、必要に応じ、幹事会および評議員会メール審議を行う。

3-6. 中国・四国支部

{支部長:内野 英治}

(1) 支部理事会開催

第1回: 2021年4月下旬, オンライン開催

第2回: 2021年12月下旬, オンラインまたはライブ開催 (場所: 未定)

第3回: 2022年3月下旬, オンラインまたはライブ開催 (場所: 未定)

(2) 支部代議員会開催

2021年12月下旬, オンライン開催またはライブ開催 (場所: 未定)

(3) 第53回日本人間工学会中国・四国支部大会

開催時期検討中

(4) 支部表彰の実施

(3)の支部大会にて発表された講演に対し優秀論文賞の授与をおこなう。また、学生の発表に対し優秀発表賞の授与を行う。

(5) 支部講演会開催

年数回実施 (予定)

(6) 支部主催・共催行事の実施

随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長:村木 里志}

(1) 活動計画

1) 2021年度支部代議員会

・開催日: 未定

・会 場: 沖縄県那覇市内 (予定)

*ハイブリット (オンラインと対面) 会議やメール会議での開催も検討

2) 2021年度支部総会

・開催日: 未定

・会 場: 沖縄県那覇市内 (予定)

*ハイブリット (オンラインと対面) 会議やメール会議での開催も検討

3) 第42回支部大会

・開催日: 未定

・会 場: 沖縄県那覇市内 (予定)

・大会長: 村木里志 (九州大学)

4. 研究部会活動

4-1. 衣服人間工学部会

{部会長：土肥 麻佐子}

<2017. 4. 1～2022. 3. 31>

(1)活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服の分野から着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく。また、パンデミック時におけるグリーンファッションという位置付けで、医療用防護服について知るための啓蒙活動も行う予定である。

(2)活動計画

研究例会の開催 2回開催予定

- ・8月 web 講演会およびweb ワークショップ
- ・2月 講演会および工場見学

(3)期待される成果

講演会、工場見学、ワークショップなどを行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また、地球環境問題をめぐる消費者の意識の向上に衣生活の立場から貢献できると考えている。

4-2. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

<2018. 4. 1～2023. 3. 31>

(1)研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2)方法・手段

1)研究例会の開催

- ・日時：2021年6月11日(金) 10:00-16:30
- ・場所：WEB 開催

【予定講演】として

- (1)「航空安全と Just Culture について」(仮題) (日本航空)
- (2)「洋上を航行するにあたって、航空機とは違い長時間に亘る業務であったり、海上航行特有の安全対策など」(仮題) (海事人間工学部会)
- (3)「新たなデータ解析～A321 neo データを使った運航のカイゼン支援～(Safety-II)」(仮題) (全日空)
- (4)「旅客機の後方乱気流が Helicopter に与える影響」(仮題) (宇宙航空研究開発機構)
- (5)「安全について」(仮題) (安全人間工学研究部会)

2)施設見学会の実施

下期にヒューマンファクターや各企業の安全への取り組みなどを介し、学び・知見を得ることを目的に、また

HP の活用することも視野に入れ、可能な限り一般公開していない施設の見学会を計画・実施する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みに活用する。

4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3) 期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学の多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-3. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

<2018. 4. 1～2023. 3. 31>

(1) 活動テーマ

「Future Experience」～ニューノーマル時代の三方よしのビジョン提案型デザイン手法～

2021 年度はフューチャーエクスペリエンス (FX) の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。また、今回世界を震撼させている新型コロナウイルスの影響により、今後の Future Experience の世界観に影響が出ると考え、「ニューノーマル時代のビジョンデザイン」についての研究と議論をアーゴデザインの視点から実施していくこととする。

(2) 手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス (FX)-WG の活動強化

フューチャーエクスペリエンス (FX)-WG の活動を今年度も更に強化していく。部会活動のテーマである「「Future Experience」～ニューノーマル時代のビジョン提案型手法～」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、オンラインワークショップ、オンラインミーティングを可能な限り実施し、その研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2) フューチャーエクスペリエンス (FX) の啓蒙・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス (FX)」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントとしてオンラインフォーラムを開催する。また、Zoom や Miro などのツールによるオンラインセミナー、オンラインワークショップを行い、「ニューノーマル時代の Future Experience」の活動との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。2019 年度より FX 教育 WG を設立し、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3) 期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるフューチャーエクスペリエンス (FX) 「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型

デザイン方法論」(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しいEXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4)活動予定

- 4月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)
- 8月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10月 見学会
- 1月 FX フォーラム開催 (HCD_net 関西支部と合同)
- 3月 2021年度 合宿研究会、総会、幹事会

4-4. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：笠松 慶子}

<2018. 4. 1~2023. 3. 31>

(1)テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2)手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やデザイナー相互の情報交換や交流をはかるとともに、若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない有益で具体的なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3)期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、特に若手研究者の裾野の拡大や関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難・課題を部会会員が相互に共有・議論する機会を提供・支援することを通して、人間工学の一層の発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。それらの過程で、これまで職人の職能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化・見える化を通して、それらのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案・還元することで、これまでのモノづくりに新たな価値(例えば感性価値や経験価値)を付加することを可能とする。

4-5. 海事人間工学研究部会

{部会長：才木 常正}

<2018. 4. 1~2023. 3. 31>

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ

少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。令和3年度は12月の関東支部大会で企画セッションを行う予定である。

2) 見学会の開催

令和3年度においては、COVID-19感染予防対策が十分に行える段階になれば、昨年度、開催できなかった東京海洋大学の船舶運航情報を収集管理解析する「先端ナビゲートシステム」の見学会を行う。

3) 新事業の提案

昨年度に引き続き、本研究部会メンバーが中心となって海事人間工学の新たな研究開発テーマを議論し、公的助成事業等に申請する予定である。更に、Web会議による勉強会を開催し、本研究部会と企業との技術交流を推進する予定である。

4) 幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度2回以上の幹事会を開催する。尚、コロナ禍でのコミュニケーションの頻度を増やすため、メーリングリストやWEB会議システムを活用する。

(3) 期待される効果

企画セッション開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者や技術者との連携を発展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-6. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長：青木 和夫}

<2018. 4. 1～2023. 3. 31>

(1) テーマ

テレワーク等の機会が多くなり、オフィス用具やIT機器等の使いやすい環境を自分自身で整備し健康管理を行なうことが必要になってきた。またCOVID-19の感染拡大により在宅勤務が増加し、在宅で適切な作業環境を設定することが課題となっている。そこで、研究部会ではテレワークや在宅勤務も念頭において、自分(他人)の働く・学ぶ環境の設定をできる知識を人間工学専門家向けに提供するとともに、一般向けに知識を提供するために作成したFAQを充実させることを活動の目的とする。

(2) 手段・方法

1) 幹事会 メールやZoomによる幹事会を開催する

2) 第62回大会における企画セッション「テレワークの人間工学」

①「7つの人間工学ヒント」について 榎原毅 (名古屋市立大学)

②「在宅ワーク/在宅学習実施時のFAQ」について 井出有紀子 (NEC)

③ディスカッション 司会：浅田晴之 ((株)オカムラ)

3) テレワークの人間工学ガイドラインの作成

本ガイドラインは人間工学専門家向けに作成する予定であったが、テレワークの急激な拡大に対応するために、一般向けのガイドライン「在宅ワーク/在宅学習実施時のFAQ」(2020年9月10日)をQ&A方式で作成した。このガイドラインをさらに充実させるとともに、人間工学専門家向けのガイドラインの作成を行う。

(3) 期待される効果

一般向けのテレワークの人間工学のFAQを充実させることによってさらに有用性が増すと考える。また第62回大

会の企画セッションでテレワークに関するガイドラインを会員に広く知ってもらうことができる。

4-7. 自動車人間工学研究部会

{部会長：石橋 基範}

〈2019. 4. 1～2024. 3. 31〉

(1)活動目的

以下の取り組みを通して意見交換や人的ネットワーク形成を進め、より使いやすい自動車の研究開発のために人間工学分野の普及・発展に貢献していく。

1) 将来モビリティに関する議論

自動運転や「空飛ぶクルマ」等の新技術領域で、社会デザインや働き方デザインの面から QOL や人間生活のあるべき姿について議論する。当面は自動運転にフォーカスする。

2) 自動車開発に人間工学を活用する方法論に関する議論

コックピット、先進運転支援システム (ADAS)、デザイン、運動性能等、従来の自動車開発領域で人間工学の適用事例を共有し、「使える人間工学」に持って行くアプローチについて議論する。

(2)2021 年度の活動内容 (手段・方法)

1) 上記 1) を主たるテーマとして、第 63 回大会で研究部会独自のシンポジウムを企画・提案する。

2) 上記 2) について、研究部会主催の基礎講習会を開催する。自動車技術会や人間工学会関東支部との連携を試み、自動車人間工学の基礎技術の底上げを目指す。

(3)期待される成果

自動車開発で「使える人間工学」に向けて、経験が浅い技術者に対して基礎技術の底上げを進められるとともに、グッドプラクティスや知見の共有化を行える。また、QOLや人間生活の面から自動運転の人間工学に関する現状認識や課題の共有化を行える。以上を通して、自動車人間工学の議論の活性化や当該分野における人間工学会のプレゼンス向上が期待される。

4-8. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：吉武 良治}

〈2020. 4. 1～2025. 3. 31〉

(1)2021 年度研究部会テーマ

1) 定量データと定性データを融合した調査研究手法の開発

2) ビッグデータ活用ノウハウ集の作成・公開

(2)活動内容(手段・方法)

1) 年間を通じて幹事間の情報交流を電子メールおよび SNS 上で行う (幹事会の DX 対応)

2) 年 2 回以上の講演会/イベントを開催する。学会員外・研究部会員外にも公開するが、今年度より学会員および研究部会員は無料、学会員外・研究部会員外は有料を検討し、研究部会員の増員を目指す。

3) 人間工学研究分野でのビッグデータ活用のための事例収集およびノウハウの抽出を行い、それらの成果の公開を目指す。

(3)期待される成果

1) 研究部会の活動を活性化し、結果として学会員の増加、研究部会員の増加に貢献する。

2) 人間工学の視点でまとめられたビッグデータ活用ノウハウの発信グループとしてユニークな存在を目指し、社会に人間工学という学問をアピールする。

4-9. PIE 研究部会

部会長：大須賀 美恵子

〈2020. 4. 1～2025. 3. 31〉

(1)活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部として設立した研究部会であるが、最近、IEA の PIE の活動は低下している。引き続き、IEA の PIE 活動を日本発で盛り上げるとともに、国内の活動を継続する。内容は、これまでと同様で、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を行う。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集、倫理的な側面についても議論を進める。更に、COVID-19 拡大の事態を新しい試みに踏み出す機会と捉え、PIE 研究分野における遠隔実験の可能性を模索するなど、新たな課題に取り組み、啓発活動を行う。

(2) 2021 年度の活動内容 (手段・方法)

新型コロナウイルス感染症の感染対策ならびに感染状況を見た上で、オンラインなどのツールを積極的に活用し、下記計画の実施予定である。

- 1) 第62回全国大会 (2021. 5. 22-23, 大阪, ハイブリット開催) において、ラウンドテーブルディスカッション「新しい生理心理実験手法への挑戦 - コロナ禍でのアブノーマルからニューノーマルへ」を予定している。
- 2) IEA2021 (2021. 6. 13-18, Vancouver, ハイブリット開催) において、Organized Session 「Low burden psychophysiological measurement especially for the assessment/improvement of ergonomic factors under the situation of "with COVID-19"」を予定している。
- 3) ワークショップや講習会など、公開企画も含めて検討する。
- 4) 部会 website へ生理計測に関する情報 (機器, 解析ソフト, 使用レポート等) を掲示する。
- 5) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3) 期待される成果

PIE 分野の現状認識、課題の抽出が行え、役に立つ PIE に向けての議論が活性化される。また、これまでの常識であった対面実験から遠隔実験への可能性の検討に基づいた部会外へ情報配信により、新しい技術の活用や発展において他分野と連携するなど、PIE の裾野を広げる。

4-10. 科学コミュニケーション部会

{部会長：山田 泰行}

〈2020. 5. 8～2025. 3. 31〉

(1) 2021 年度研究部会テーマ

- 1) 科学コミュニケーションの捉え方や、期待される役割についてのコンセンサスの形成
- 2) 科学コミュニケーションの共通理解に向けた部会企画の開催
- 3) 人間工学の社会実装に向けた科学コミュニケーション企画の開催

(2) 活動内容 (手段・方法)

- 1) 部会幹事がミーティングや勉強会を通して科学コミュニケーションの理解を深め、人間工学会で実施する科学コミュニケーションの枠組や方向性を定める。

- 2) シンポジウムやセミナーによる部会員や人間工学会員との対話を通して、人間工学会における科学コミュニケーションの枠組や方向性についての共通理解をはかる。
- 3) 「人間工学を社会に役立てるための科学ミーティング」を定期開催することで、科学コミュニケーションの共通理解と人間工学の社会実装の方法を確立する。

(3) 期待される成果

- 1) 部会員・学会員の研究領域や職種によって、科学コミュニケーションに対する理解や期待される役割は異なるが、バックグラウンドやスタンスの違いを越えて対話できる共通言語や共通認識が定着する。
- 2) 部会員・学会員の理解と支持を得た上で、本部会の活動が展開される。
- 3) 部会員・学会員に「科学コミュニケーション活動は確かに人間工学の社会実装を促す」という実感がもたらされる。

4-11. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

人間工学をシステム論的立場から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会は、今年で29年目を迎えた。毎年3月に開催される研究発表会（システム大会、第28回および昨年度の第29回大会は新型コロナウイルス拡大の為On Line開催）は、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者、卒業研究生、修士研究生にとって、日本人間工学会全国大会（毎年6月開催）・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。さらに近年、全国各地から大学関係者、企業研究者の発表も増え、医学から工学、さらには人文科学領域にわたる幅広い分野の研究者が集い、議論できる同大会は盛況である。

(2) 活動の内容

第29回システム大会（令和二年度大会、東海大学主催）をOnLineにて開催した。具体的にはZoomを用いて発表スライドを共有し、また質疑応答を双方向通信およびChatにて行った。大規模な災害等の発生における学会運営の一つのケースとして今回も十分な成功を収めたと考える。新型コロナの状況にも左右されるが、例年に続き、来年度も定期大会開催を計画しており、同大会を通じて、学生、若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。次期大会（第30回システム大会、東海大学主催）開催に向け、年数回、大学教員を中心に幹事会の実施を計画する。

一般社団法人日本人間工学会2021年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	石橋 基範、中川 千鶴	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	辛島 光彦、笠松 慶子	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	山田 クリス孝介、 松岡 敏生、齋藤 祐太	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	榎原 毅、村木 里志	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷 賢太郎、鳥居塚 崇	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井 孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	堀江 良典、鴻巣 努	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	芳賀 繁、狩川 大輔	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横山 清子、青木 洋貴	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
人間工学専門家認定機構	八木 佳子、鳥居塚 崇	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	加藤 麻樹、境 薫	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
企業活動推進委員会	易 強、佃 五月、善方 日出夫	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討
人間工学戦略ロードマップ検討委員会	三林 洋介、中本 和宏	人間工学、及び JES の過去、及び未来のロードマップの検討と視覚化
国際誌検討委員会	榎原 毅、村木 里志、下村 義弘	人間工学分野の国際誌の現状を調査し、今後の戦略を検討
子どものICT活用委員会	柴田 隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
選挙管理委員会	山田 クリス孝介	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
役員候補者推薦委員会	吉武 良治	次期役員候補者を検討・推薦
第 62 回大会担当	大須賀 美恵子	2021 年 5 月 22～23 日に大会開催
第 63 回大会担当	村田 厚生	2022 年 6 月に大会開催